

〔I〕 次の英文を読んで以下の設問に答えなさい。

Homegrown ride-sharing and home-sharing companies emerged in China early this decade, shortly after Uber Inc. and Airbnb Inc. launched in the United State. The industry has boomed ever since. According to the Chinese government's sharing-economy research office, 600 million Chinese conducted business worth \$500 billion in the sector in 2016, up 103 percent over 2015.

Numbers like that attract investors: Chinese sharing companies raised almost \$25 billion last year. The sector has grown well beyond cars and apartments: Bike sharing has been one of the country's most visible destinations for venture capital over the last few months. Even as much of the Chinese economy is slowing or stalling, the government expects China's sharing economy to account for 10 percent of GDP by 2020.

Three factors justify that optimism. The first is China's demographic profile. At one end of the spectrum, China's millennials are the engine for the country's world-beating e-commerce industry and the sharing economy that's grown out of it. Rather than splurge on a car many Chinese youth would prefer to save money for lifestyle experiences such as travel, or to seed their own startups.

宮本 文 編、15 Topics for Tomorrow's World, (東京：松柏社、2019)、p8

設問1 上の文章の全文を日本語に訳しなさい。

設問2 あなたは“bike-sharing”のビジネスの可能性についてどう考えますか？100 words 程度の英語で書きなさい。

〔II〕 次の英文を読んで以下の設問に答えなさい。

I am not afraid of being thought a sentimentalist when I stand here tonight and tell you that I believe natural beauty has a necessary place in the spiritual development of any individual or any society. I believe that whenever we destroy beauty, or whenever we substitute something man-made and artificial for a natural feature of the earth, we have retarded some part of man's spiritual growth.

I believe this affinity of the human spirit for the earth and its beauties is deeply and logically rooted. As human beings, we are part of the whole streams of life.

Rachel Carson, "We Are Part of the Whole Stream of Life"(1954)

設問 この文章の中で“T”（筆者）が信じている内容を簡潔に日本語で説明しなさい。

國際文化研究科 國際文化專攻 國際文化分野 博士前期課程

入試区分：一般

〔問題2〕 張愛玲小説によく使われる創作手法「意識の流れ」を具体例を挙げて説明しなさい

〔問題3〕 『小団円』のあらすじを簡潔に述べなさい(800字前後)

試験科目	専門科目
------	------

受験番号	
------	--

評 点	
--------	--

令和5年度 大学院国際文化研究科
博士前期課程 入学試験
日本語科目

受験番号	
氏名	

問題Ⅰ～Ⅳにつきましては、
著作権処理等の都合により公表しておりません。

問題Ⅴ. 次の文章を読み、あなたの考えを書きなさい。尚、横書きで書くこと。(30 点)

【出典】林純次『学校では学力が伸びない本当の理由』光文社 2022 年、尚、一部改訂。

日本の教科書で勉強していると、世界のトップ層と差をつけられてしまうことになるのではないかと私はそう感じるようになっていく。事実、日本のトップと言っても誰も異論を唱えない数学教師、英語教師、予備校の講師はもちろんのこと、僭越ながら私も教科書を使った授業は基本的に行わない。私個人で言えば、勤務する学校のルールや文化に合わせるときのみ教科書を用いてきた。自分なりに自由に授業を作れる学校では、教科書を一度も開かず1年を終えていた。

なぜか、答えは明白。レベルが低いからだ。教科書の内容がわかっているならば、その科目がわかったことになるというのは無理がある。特に高校の国語はひどく、国語力が伸びるとは思えない。局所的な話をすれば、受験の内容すら網羅できていない。理科・社会・数学は内容が薄く、英語は読み物程度と言っているだろう。これがわかっているから、ほとんどの進学校では副教材を使いまくっているのだ。

各国の数学と理科の教科書を比較した調査がある。この調査は、日本とアメリカ、カナダ、イギリス、フランス、ドイツ、フィンランド、韓国、中国、台湾の10カ国を比較したものだが、次のように総括している。「算数・数学の教科書は、日本は約200ページであるが、ほとんどの国が250ページを超えている。(中略)300ページに達する国もある。」

日本のように薄い教科書であればあるほど、副教材を使用する率が高まることも併せて分析している。

各国の算数・数学の教科書の実態を受け、調査の担当者たちは次の提言を行っている。

- A 算数・数学の教科書の役割や教科書観を検討する。
- B 算数・数学を学ぶ意義を明示する。
- C 児童・生徒の多様性への対応を検討する。
- D 実世界との関連を積極的に取り入れる。
- E 他教科との関連を密にする。
- F ICTを積極的に活用する。

Aについては、「教科書で教える」のか、「教科書を教える」のか、「教科書を使ってもよい」のか、「教科書を使わなければならない」のか、基本的な課題を検討すべきということだ。報告者の意見は的確である。このようなベーシックラインとも言える部分すら解決していないのが日本教育界の現状であり、改善すべき点だ。そして、その課題が解決したならば、教員にも生徒にも保護者にもわかる形で公にすべきなのだ。それをしないから、「なんで教科書を使わないんですか？」というクレームが発生する。

検定を行っている文部科学省、教科書の出版社、そして教科書信奉者が三位一体となって

自己の思想を正当化する論陣を張るので、改革の機運すらないが、状況を冷静に客観視することを勧めたい。

Bについては、各国の教科書がその意義を言語化しているにもかかわらず、日本はそれに着手していないという危機意識の表れである。その通りだと感じる。「数学なんて使わないもん。なんでやらなきゃいけないの?」といった訴えを生徒から聞くことは多く、現場の教員が自己流でその意義や必要性を説く場面はよく見てきたが、一定程度、共通する言葉があってもいいだろう。また、その言葉があれば保護者もそれを用いて子女と向き合える。文部科学省は何の検定をしているのか。最も大切な目標設定が見落とされているように感じられる。

Cの多様性について、イギリスやフィンランドがレベル別に教科書を変えていること、さらにアメリカやフランス、ドイツ、フィンランド、中国、台湾では練習問題のページが多く、児童・生徒のレベルに応じられるようになっていることからの提言だ。日本のように全員が同じことを同じ時間内にできるように、という線引きをすると、このような柔軟性は損なわれる。最低限求めるものは決めておいていいが、各国のように自由度を持たせることを一考すべきでなかろうか。

Dについて、「ドイツでは豊富な実世界の内容が扱われ、カナダでは、実世界との関わりが深い離散数学や行列の内容が義務教育で扱われ、韓国でも同様の内容が高校で積極的に扱われ、フィンランドでは実世界の問題のための追加のページがあり、アメリカやフィンランドでは、実世界の問題を数学で扱うための方法としての数学的モデル化が扱われている」というから、日本の教科書はかなり遅れている。

EとFについては、カリキュラムや時間割に余裕のない現状では、すぐさま採り入れることは難しいだろうが、Dの観点と合わせて検討すべき点だと賛同する。

義務教育と異なり、日本の高校の教科書は有償制度となっている。今の高校教育では義務的に購入させられているのが現実だろう。実は「適切な教科書がないなどの特別な場合には、これらの教科書以外の図書（一般図書等）を教科書として使用すること」ができるとされている。しかしながら、教科書を買わせていない学校は極めて珍しい。それに、今までのそういう文化だったからであり、高校教育現場の担当者たちが教科書の評価はもちろん、教科書なしの指導ができないからに他ならない。もっと言えば、前年までと同じ内容を教えることに甘んじているのである。

教科書が国の検定制度に支えられた正しいものとして存在しているから、教員は教科書を教えればいいとなる。これでは前記の問題は一つも解決しない。教科書が学ばない教員のためのテキストになっているとは笑えない実態だ。

問題VI. 岡崎匡史は以下のように述べている。

たとえ「博士」であろうとも、拝金主義の世の中では、生産性のない人間は「歯車」だ。
無価値の存在であることを甘受しなければならない。

(岡崎匡史『文系 大学院生サバイバル』ディスカバー・トゥエンティワン 2013 年)

この言葉の真意とあなたの考えを書きなさい。尚、横書きで書くこと。(30 点)

令和5年度 九州産業大学大学院 国際文化研究科 入学試験問題用紙(春期)

國際文化專攻 博士前期課程 國際文化研究分野 【專門】

- 1 教員の資質能力に関する日本の教育改革について自由に述べなさい。(50点)

This image shows a single sheet of white paper with horizontal blue or grey ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

- 2 中国における学校教育の現状と課題について自由に述べなさい。(50点)

This image shows a single sheet of white paper with horizontal blue or grey ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are approximately 20 lines visible. The paper appears to be from a notebook or a set of legal pads. There is no handwriting or other markings on the page.

受験番号	
------	--

評点	
----	--